

## ティーチング・ポートフォリオ

学科：児童教育 氏名：小山久美子

(記入日：2021年 9月 30日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

<2020年 前期>

「小学校英語指導法」(児童教育学科 2年 前期 必修科目 2単位)

「小学校英語」(児童教育学科 1年 前期 必修科目 2単位)

「言語学入門(1)」(国際英語学科 1~2年 前期 選択必修科目 2単位)

「英文法Ⅱ」(国際英語学科 2年 通年 選択必修科目 2単位)

「英語学特講」(国際英語学科 3~4年 前期 選択必修科目 2単位)

「英語科教育法Ⅰ」(国際英語学科 2年 前期 教職必修目 2単位)

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

教職関連科目については、学生に小学校、中学校、高等学校で英語を指導できる知識と指導技術を身につけさせるためである。

国際英語学科専門科目では、学生に英語の構造を理解させ、言語学全般についての基礎的知識、さらに専門的な英語史・国際英語として英語の知識を習得してもらい、自分で見つけたテーマを探究し論文を書けるようにさせるためである。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

「小学校英語指導法」「小学校英語」「英語科教育法Ⅰ」では、オンライン授業のため、事前に資料をファイルに添付し、学生がダウンロードまたは印刷して、授業に臨めるようにした。授業内課題の提出、返却、次の授業でその説明をする等のフィードバックを行った。「小学校英語指導法」では、クラスルーム・イングリッシュを授業の最後にリスニング形式で実施した。「小学校英語指導法」「英語科教育法Ⅰ」では、対面授業に移行してから学生が模擬授業をし、生徒役の履修生と意見交換、教員が講評した。

「言語学入門(1)」では、オンライン授業で授業内容の動画を視聴した後、双方向で補足説明、授業内課題及び特別課題の提出、コメントを付して返却した。

「英文法Ⅱ」「英語学特講」では、オンライン授業のため、事前に資料をファイルに添付し、学生がダウンロードまたは印刷しておき、それを授業内で説明、双方向で質問に答えてもらった。授業内課題を提出、返却して、次の授業で説明する等のフィードバックを行った。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

「小学校英語指導法」では、学習指導案を書き（エビデンス 3）、模擬授業を行うことができたが、各自が 45 分の授業を実施することはできなかった。しかし、全員がオール・イングリッシュで模擬授業をした。これは、クラスルーム・イングリッシュの徹底と授業の初めに英語の歌を歌うなど英語に慣れるよう工夫した結果なので、今後も続けていく。

「小学校英語」では、小学校英語の指導に必要な英語の基礎知識について説明したが、音声に関する指導時間が少なかった。全体として、文法が苦手であることが分かったので（エビデンス 2）、今後は説明に十分時間をかける必要がある。

「英語科教育法Ⅰ」では、対面授業で模擬授業を行うことができたが、各自が 50 分授業を実施することができなかった。導入・展開・まとめまでの流れの時間を設ける必要がある。また、この科目が教科教育法のどのような位置にあるのかを授業の最初に説明する必要があった（エビデンス 1）ので、今後はコア・カリキュラムについて説明していく。

「言語学入門(1)」では、理解不足がみられたので、授業内容のフィードバックを入念におこないたい。（エビデンス 1）。

「英語学特講」は、ディスカッションをしながら進める予定だったが、オンライン授業でそれができず不十分であった。

「英文法Ⅱ」では、練習問題は十分にできたが、説明にも時間をかける必要があった。

## 5 今後の目標（これからどうするか）

学生の授業内容を十分に理解できるよう、説明を丁寧にしていくことを心がける。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. 2021 年前期授業評価アンケート（非公開）
2. 授業内課題、授業外課題（非公開）
3. 学習指導案（非公開）

## ティーチング・ポートフォリオ

学科：児童教育 氏名：小山久美子

(記入日：2022年 2月 7日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

<2021年 後期>

「言語学入門(2)」(国際英語学科 1~2年 後期 選択必修科目 2単位)

「英文法Ⅱ」(国際英語学科 2年 通年 選択必修科目 2単位)

「言語学演習(3)」(国際英語学科 3~4年 後期 選択必修科目 2単位)

「英語科教育法Ⅱ」(国際英語学科 2年 後期 教職必修科目 2単位)

「セミナー」(国際英語学科 3年 通年 必修科目 4単位)

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

教職関連科目については、学生に中学校、高等学校で英語を指導できる知識と指導技術を身につけさせるためである。

国際英語学科専門科目では、学生に英語の構造を理解させ、言語学全般についての基礎的知識、さらに専門的な語用論の知識を習得してもらい、自分で見つけたテーマを探求し論文を書けるようにさせるためである。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

・「英語科教育法Ⅱ」では、資料を配付し、パワポを用いて説明した。各領域に関しては、学習指導案を作成させ、履修者でディスカッションし、教員が講評した。また、模擬授業では、履修者が生徒役をし、模擬授業後に履修者でディスカッションし、教員が講評した。

・「言語学入門(2)」では、資料を配付し、パワポで説明し、授業後にブリーフ・レポートを書かせ、提出させた。回収後、コメントを付して次の授業で返却した。

・「英文法Ⅱ」では、資料を配付し、パワポで説明した後、練習問題を解かせ、解説した。

・「セミナー」では、毎回、各自が担当箇所についてレジュメを作成し、発表し、全員でディスカッションを行った。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

「英語科教育法Ⅱ」では、前期よりは、授業の位置づけを理解できていたが、学習指導案の作成については不安に思っている学生がみられた。また、前期よりは、模擬授業の時間を確保したが、もう少し展開に時間をかけるようにする必要がある。(エビデンス1、2)

「言語学入門(2)」では、前期よりはゆっくり展開できたが、理解できていない学生がみられたので、資料を増やす等の工夫をする必要がある。(エビデンス1)。

「言語学演習(3)」は、ディスカッションをしながら進められ、学生も理解してくれていた。(エビデンス1)

「英文法Ⅱ」では、練習問題は十分にできたが、解説に時間をかける必要がある。(エビデンス1)

「セミナー」は、全員がディスカッションに参加し、活発に意見交換ができた。また、内容も理解できている。(エビデンス1、3)

#### 5 今後の目標 (これからどうするか)

学生の授業内容を十分に理解できるよう、説明のやり方を工夫し、丁寧にしていくことを心がける。

#### 6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

1. 2021 年後期授業評価アンケート (非公開)
2. 学習指導案 (非公開)
3. レポート (非公開)

## ティーチング・ポートフォリオ

内海崎貴子

(記入日：2021年 9月 1日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

教職論 (小) (1年次前期教職必修 2単位)、教職論 (中・高) (1年次前期教職必修 2単位)、教育実習演習 (事前・事後指導) (3～4年次教職必修 1単位)、教育原理 (1年次後期教職必修 2単位)、道德教育の指導法 (中・高) (3～4年次教職必修 2単位)、生徒指導 (中・高) (3～4年次教職必修 2単位)、教職実践演習 (4年次後期教職必修 2単位)、女性学 (共通教育選択必修科目 2単位)、女性学 (1) (共通教育選択科目 2単位)、女性学 (2) (共通教育選択科目 2単位)

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

- ・ 教育に関わる基礎的・基本的知識、および教員として必要な技能の習得
- ・ ジェンダー・女性学の視点から、日常生活における様々な問題を発見し、それを解決しようとする態度や方略を身につけ、自身のライフサイクルを考えられるようにすること

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

- ・ インターネットを活用した情報収集の時間を設定し、グループの共同作業により課題解決を図る (生徒指導)
- ・ 参加体験型授業の実施 (教職論)
- ・ ワークシートを用いた学習内容の整理及び検証をグループにより実施 (教育原理)
- ・ 模擬授業実施および「授業参観記録」を用いた討論設定 (道德教育の指導法)
- ・ ICTを活用した実践的模擬授業の実施 (教職実践演習)
- ・ ICTの活用、グループワーク、ワークショップ、ナプキン製作と吸収力の実験の実施 (女性学、女性学 (2))

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

- ① 生徒指導では、学生全員がインターネットから収集した情報を活用し、PCによるプレゼンテーションを実施できた。
- ② 教職論の授業では、参加体験型のワークショップを実施することにより、学生が積

極的に授業参加、授業後の討論によりこれまでの学習内容と経験が定着した。

- ③ 教職論、教育原理では、各回のワークシートをファイリングすることにより、学習内容の確認と省察が可能となった。
- ④ 道德教育の指導法では、模擬授業実施後の討論を活用し、自身の学習指導案を再構築できた学生は3分の2にとどまったことから、課題が残った。

## 5 今後の目標（これからどうするか）

ほぼすべての科目において、的確かつ安全にICTを活用できるよう指導する。また、事前・事後の学習課題を設定するとともに、オフィスアワーを利用して、学生への個別指導を行う。特に、教職論、教育原理では、教科書使用を促し、反転学習の機会を増やしたい。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ① リアクション・ペーパー（非公開）
- ② 学習指導案（非公開）
- ③ プレゼンテーション用資料（非公開）
- ④ 教科書 内海崎貴子編著『新・教職のための教育原理』八千代出版、2021年
- ⑤ 教科書 内海崎貴子編著『教職のための道德教育』八千代出版、2017年
- ⑥ 教科書 山崎準二・矢野博之編著『新・教職概論 改訂版』学文社、2020年

## ティーチング・ポートフォリオ

(記入日：2022年 1月31日)

児童教育学科 田中 聡

### 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

- ・児童教育演習（3年 通年 必修 4単位）
- ・算数（1 - 4年 通年 選択必修科目 4単位）
- ・生活の数学（1）（1 - 4年 前期 選択必修科目、各2単位）
- ・学校経営論（学校安全を含む）（3年 前期、後期 選択必修科目 2単位）
- ・総合的な学習の時間の指導法（3 - 4年 前期、後期 選択必修科目 2単位）
- ・教育行財政（4年 前期 選択必修科目 2単位）
- ・教育実習演習（事前・事後指導）（3 - 4年 通年 選択必修科目 1単位）
- ・教育実習演習（事前・事後指導）中高（3年 後期 選択必修科目 1単位）
- ・教職専門演習（2）（3年 前期 選択必修科目 2単位）
- ・算数科教育法（2 - 4年 後期 選択必修科目 2単位）
- ・教育実習演習（事前・事後指導）中（4年 通年 選択必修科目 1単位）
- ・教職インターシップ<sup>o</sup>（事前・事後指導）（3 - 4年 通年 選択必修科目 4単位）
- ・学校体験活動（1 - 3年 通年 選択必修科目 4単位）

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

- ・自ら課題に向き合い、他者と協働しながら主体的に解決策に取り組むことにより、感謝の心と奉仕の精神を育み、自立した人材を育成するため。
- ・教職に対する意欲を引き出し、教員に必要な基礎的、基本的な知識・技能を習得し、活用できるようにするため。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

- ・事前学修の課題を明確にし、事前に取り組んだものを授業内で共有し、新たな疑問や課題に向き合いながら問題解決型の授業を進めてきた。各学年、領域の目標や学習内容の系統について学習指導要領を基に調べ、PPシートを作成し、プレゼンを行った。（算数）
- ・事前学修として模擬授業のための素材づくりや細案、略案、板書計画等の作成を行った。必要により事前学修の個別指導を面談やリモートで行った。模擬授業の様子をビデオ撮影し、事後学修での振り返りを行った。毎回、見

童役となった学生全員で評価票を記入し、模擬授業者に提出した。(算数科教育法)

- ・ 実際の学校現場の様子や先輩の実習の様子をビデオ視聴できるようにした。教育実習での具体的な課題を提示し、ディスカッションする場面を設定した。毎時間のリアクションペーパーを事後学修の中に盛り込んだ。(教育実習演習)
- ・ 実際の教授に合わせた模擬授業や各自が収集した時事問題のプレゼン、集団討議を授業の導入で実施した。事前学修として、各自治体の教授の傾向や過去問題の傾向を調査し、ディスカッションやプレゼンを行った。(教職専門演習)
- ・ **teams** でのリモート授業では、双方向のリアルタイムでのやり取りを主に行った。そのため学生が事前に調べた内容をP Pシートで発表するようしたり、マイクONの学生だけが発言できるようにしたりして、リモート画面でのやり取りがスムーズに行えるようにした。プレゼンに対する質問などはチャットでの書き込みでも並行して行ってみた。  
(児童教育演習、教育実習演習等)
- ・ **teams** のファイルや課題フォルダを活用して説明資料や問題の回答などをアップし、学生が事後学修に活かせるようにした。リアルタイムでのリモート授業を実施した。(生活の数学)

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

- ・ 少人数（20名程度）の授業では、**teams** の活用により、授業中の個別の意見や質問を取り上げやすくなった。個別対応が取れることで学生の意欲が高まり、主体的な参加型の授業となった。
- ・ 事前学修での課題⇒授業内でのプレゼン、ディスカッションといった流れが、1時間1時間の授業のねらいを学生が理解し、振り返るのに有効だった。
- ・ 学校現場の具体的な指導場面のビデオ視聴や外部講師の導入は、学生の課題意識を明確にし、教職に向かう意欲の向上に大きく寄与した。
- ・ 1時間の授業課題を明確にし、問題解決型にすることで、学生に授業の意図をわかりやすく伝えることができ、学生も積極的に授業に参加できた。特に、事前学修が充実してきた。
- ・ 振り返りシートや授業評価等を活用することで、学生の「わかった」「できた」というメタ認知を創り出せた。教職に関する具体的な知識技能を習得し



ているという実感を持たせることができた。

- ・ どの授業も授業評価の各項目で「そう思う」が多かった。特に教育実習関係の科目は、学生にとっても主体的に学ぶことができたようである。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

- ・ 卒業後教師になるという目標がはっきりしている学生以外でも、人としてどう課題に取り組むべきかを考えられるように、それぞれの「学び」の目標をさらに明確にし、取り組むべき学習課題の設定を適切に行っていききたい。
- ・ ICT 活用が必須となるので、現在学校現場で活用されている実物投影機や大型テレビ、プロジェクター等に加え、タブレット端末の活用も模擬授業の中で取り上げていききたい。
- ・ ワード、エクセル、P P等のアプリの活用を積極的に行い、作成スキルの向上を目指すとともに、プレゼンスキルについても授業の中で触れながら向上を図っていききたい。
- ・ 学校現場からお招きする管理職や教育委員会の指導主事、管理主事等の外部講師については非常に効果的なので、その人材確保と授業内での活用方法についてさらに工夫していききたい。
- ・ 教員採用選考に対する取り組みを組織的に行うことができたが、教職専門演習等の授業との関連や教員同士の横のつながりを強くしていききたい。
- ・ ボランティア等で学校現場との積極的な交流を一層進めていききたい。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ① 振り返りシート、板書計画、単元の指導計画、学習指導案、レポート等
- ② 「彼方」（校長通信・指導室長だより）、テキスト（シラバス記載）
- ③ 外部講師、学校現場での実践ビデオ、実習生の精錬授業のビデオ

## ティーチング・ポートフォリオ

児童教育学科： 氏名：山口 祐子

(記入日：2021年9月14日)

### 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

- 学校体験活動／教育インターンシップ（2～4年次通年選択必修2単位）
- 教職教養演習（3）（3～4年次後期選択必修2単位）
- 教育実習演習事前・事後指導（3～4年次通年選択必修1単位）
- 学校経営論（学校安全を含む）／教育行財政（2～4年次前期選択必修2単位）
- 総合的な学習の時間の指導法／教職総合演習（3～4年次後期選択必修2単位）
- 基礎ゼミナール（1～4年次前期必修2単位）
- 教職実践演習（小学校）（4年次後期選択必修2単位）
- 児童教育演習（3～4年次通年必修4単位）
- 教職インターンシップ（事前・事後指導）（3～4年次通年選択必修4単位）
- 教育実習演習（小 事前・事後指導）（4年次通年教職1単位）
- 教育実習（小）（4年次後期教職1単位）
- 特別活動の指導法（2～4年次前期選択必修2単位）

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

- ・「何を学ぶか」「どのように学ぶか」そして、「何ができるようになったか」を実感できるシラバスを作成し、主体的に学び続けられる学生を育てる。
- ・教員採用選考を通過し、教壇に立つために必要な基礎的・基本的事項を身に付けさせる。
- ・学校体験活動や教育実習を通して、体験することによって現場の雰囲気や取り組み方を肌で感じ、教師になる使命感や自覚を高める。
- ・実務家教員として、創意工夫しながら、現場ですぐ生かせる指導を行う。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

- ・講義の見通しを持たせる。「講義」「体験」「課題への取組（個・グループ）」  
「発表」を適宜取り入れる。基礎基本は講義形式で行い、そこから探究すべき課題を設定する。情報収集や協働的な学びを積み重ねながら、個やグループで発表させる。  
「評価者」としての力を付けるために、発表時に評価をさせている。また、どの時間においても「振り返り」を大切にしている。教育実習演習では、指導案作成・模擬授業を行い、担当者と学生の評価をフィードバックした。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

- ・振り返りや評価カードでは、学生の真剣な取り組みと豊かな感性を感じた。「体験」や「主体的・対話的で深い学び」を重ねる中で、成長する姿を感じた。
- ・課題には丁寧に取り組む学生が多く、力を伸ばした。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

- ・教師になることの「厳しさ」、社会や教育の変革の激しさや、それに対応する教師力が必要なこと等を伝えていきたい。併せて、教師という職業は他では味わうことができない「やりがい」があるということをお話していきたい。「各科目」・「体験や実習」・「教員採用選考に向けて」・「卒業研究」、それぞれに「目標」をもたせ、自分なりの努力を「可視化（記録をつける）」させ、達成に向けて努力させていきたい。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・振り返りシート、評価カード、指導案、板書計画、体験レポート等
- ・パワーポイント資料、

## ティーチング・ポートフォリオ

児童教育学科 : 氏名 横山 悦子

(記入日: 2021年9月20日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか: 担当科目)

- 国語 (1年次通年選択必修 4単位)
- 国語科教育法 (2年次前期選択必修 2単位)
- 国語科教育法Ⅰ (2~4年次前期教職科目 2単位)
- 国語科教育法Ⅱ (2~4年次後期教職科目 2単位)
- 児童教育基礎演習 (2~4年次前期必修 2単位)
- 児童教育演習 (3年次通年必修 4単位)
- 卒業研究演習 (4年次通年必修 4単位)
- 教職専門演習 (1) (3年次後期選択必修 2単位)
- 教職実践演習 (小学校) (4年次後期選択必修 2単位)
- 教職実践演習 (中・高) (3年次後期選択必修 1単位)
- 教育実習演習 (小事前・事後指導 4年次通年教職 1単位)
- 学校体験活動 (事前・事後指導 1~4年次通年 4単位)
- 日本語と表現 (1) (1~4年次選択必修前期後期各 2単位)
- 教職入門 (1~3年次前期選択必修 2単位)

### 2 理念 (なぜやっているか: 教育目標)

- ・予測困難な時代を生き抜くために必要な力を『感性』と捉え、共に磨き、鍛えることで豊かな人間性を養い生きぬく力を育む。
- ・言葉や文芸、文化に対する興味・関心を高め、教育実践をリードできる能力と行動力、協調性を育む。

### 3 方法 (どのようにやっているか: 実践の工夫)

- ・どの科目も半期・年間の「ゴール」を明確にし、主体的に学習できるようにする。また、毎時間、授業の始めに「ねらい」を提示し意識して取り組ませ、終わりに「まとめ」をさせ振り返らせる。
- ・毎時間、「課題・リフレクション」を行い、自己の成長に気づけるようにする。リフレクションシートは提出させ、必ず教師のコメントを入れる。できたことを認め、モチベーションが上がるようにする。自信を持たせ意欲につなげていく。

- ・講義は得た知識がそのまま終わらないよう、様々な体験を交えながら話したり、講師を招聘したり柔軟に活用できるようにする。
- ・『感性を磨く』を合言葉に、四季折々を題材にした「俳句コンクール」を実施したり、「絵手紙」や「ポップ広告」を作成した際、よい作品には「賞」をつけて展示したりした。序列をつけるためではなく、心を耕すために実施する。
- ・国語では、主に学習材の分析と授業デザインの理論や方法の定着、国語科指導法では、指導案や板書計画を作成し模擬授業を実施。授業後、2分間「ほめほめシャワー」の時間を設けよかった所を伝え合い、課題については「評価カード」に記入し授業者に手渡す。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

- ・リフレクションシートの内容より、対話することで深い学びができ、自分の成長を自覚できたという記述が多く見られた。
- ・「ほめほめシャワー」の実践により、自己肯定感が上がり授業中の発表や態度が意欲的になってきた。
- ・「俳句コンクール」や「絵手紙」「ポップ広告」などの展示を見に来る学生が増えた。「継続してほしい」との願いがあり、俳句コンクールを増やした。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

- ・「感性を磨く」  
予測困難な時代を自分の頭で判断し決断し力強く生き抜くために、『感性を磨く』を合言葉に、豊かな人間性を養っていく。そのために、全ての授業科目を通し心の教育を実践していく。
- ・「個」を大切にする。  
教育実践をリードできる資質・能力を育むための土台となる、自己肯定感をあげる。可能性が最大限に引き出されるよう支援していく。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・リフレクションシート、評価カード
- ・学習指導案、板書計画、プレゼン資料、パワーポイント等
- ・作品（絵手紙・ポップ広告等）

## 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

### 学部

- 介護等体験（児童2年通年選択必修科目1単位）
- 介護等体験（中高2年通年選択必修科目1単位）
- 介護等体験（目白2年通年選択必修科目1単位）
- 特別支援教育実践演習（3・4年後期選択必修科目 2単位）
- 特別支援教育（我孫子前期 必修科目、2単位）
- 特別支援教育（目白後期 必修科目、2単位）
- 生徒・進路指導論（児童2～4年後期 2単位）
- 進路指導・キャリア教育（我孫子前期・後期 教職科目 各2単位）
- 進路指導・キャリア教育（目白後期 2単位）
- 教職インターンシップ（我孫子 児童 集中2単位）

### 大学院

- 特別支援教育の理論と方法（講義 2 半期 1・2 選択必修科目 2 単位）
- 特別支援教育実践法（演習 半期 1・2 選択必修科目 2 単位）
- 特別支援教育実践演習Ⅰ（演習 半期 1・2 選択必修科目 2 単位）
- 特別支援教育実践演習Ⅱ（演習 半期 1・2 選択必修科目 2 単位）
- 学校経営特論（講義 半期 1・2 選択必修科目 2 単位）

※ 本年度 担当している大学院は開講していない

## 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

### 私の教育理念・目標

学生が教職の現場に立った際、指導上、特別な支援を必要とする児童・生徒に対して共感的な支援ができるように、指導の基本的な姿勢と基礎的な知識を身につけさせることである。また、そうした児童・生徒への支援方法を自ら工夫し、他の職員と協働して支援体制を構築することができるようにすることである。

また、理論を理解するために実際の教育現場に学生自身が足を運び、主体的に現場での経験を重ね、その経験を大学で他の学生と共有した上で、講義で理論として学んだことを教育現場での経験を通して確実に習得することができるように授業を進めることである。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

学生が大学で学修する理論や方法を自分のものとして定着させるために、教育現場での体験・経験と大学での講義の往還教育を大切にしている。

また、介護等体験（事前・事後指導）では現場で働く社会福祉施設の施設長や特別支援学校校長による事前指導を行う。授業では先輩達の体験記などを資料として実際の体験に基づく注意点や介護のポイントを指導し、具体的な授業を心がけている。また、施設での介護等体験が終了した者から施設での様子や成果を発表し、それぞれの経験を受講者全員で共有する事を大切にしている。また事後指導はそれら経験をレポートにまとめさせることで経験の定着を図っている。

特別支援教育では特にインクルーシブ教育システムの構築に向けての基礎的な知識を学ぶために、小学校における具体的な支援を想定して国立特別支援教育総合研究所のインクルーシブ教育システム構築支援データベースを実際に使用しながら、具体的な支援方法についての理解を進めている。また、具体的な支援の例では、NHKアカイブス等を使用し、具体的な支援の様子をこれまでの教育現場での実例を示しながら解説することで、より理解しやすいように心がけている。また、途中では教材としてDVDの視聴・YouTube等での画像も使用し、障害の特徴や指導について具体的なイメージが持ちやすいように工夫している。

進路指導では進路指導をキャリア教育ととらえて、キャリア発達理論を学びながら、実際に自分自身のキャリアについての検査を行い、自らのキャリアについて考察を加えることを通じて児童・生徒のキャリア教育の意味を理解することを大切にしている。

教職インターンシップでは受講者は千葉県の教職たまごプロジェクトに参加し、年間を通じて毎週1回指定された小学校・特別支援学校に通い、実際の学校現場を体験する事を基本にしている。本来体験は個人的なものであり、その体験は自分一人の主観によって理解されるものである。しかし、この授業では定期的な体験の内容を、相互に発表し、その内容を共有する事で学生が将来学校の現場に立つための種々の技術の見聞と習得を目指している。

すべての授業において毎回、授業のプリントを作成し、それに基づいたパワーポイント資料を作成し授業中に示しながら授業を行っている。主体的に学習を進める機会を多くするために、課題に対してグループでの討議や発表を複数回行っている。課題への取り組みでは自が考える時間に加えて、学生研究室などを利用して、授業時間以外にも学生相互が

協力・相談し最終的に課題を完成するように指導をした。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

介護等体験・教育インターンシップでは介護等体験・教育ボランティアを経験した学生がその都度体験レポートをまとめ、発表を行うことで自らの体験を振り返ることを繰り返し、回を重ねるごとに、児童生徒の前での対応が向上し、教師としての自覚を高めることができた。（エビデンス1）。

進路指導・特別活動の理論と方法においては授業構想案・指導案の作成や・発表用のパワーポイントづくり（エビデンス2）を通じて発表の質を高めることができた。

#### 教職インターンシップ

本年度は8月、12月にリモートの授業を行い、それぞれの配属された小学校での経験をパワーポイントを使い発表した。その後、質問と意見交換を行った。各自の学校での体験を具体的なイメージとして共有した上で授業での教員から理論的な裏付けを名学修することができる。（エビデンス3）

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

本年度は介護等体験でも昨年から地域の公民館と共催で障害者の生涯学習支援を行っているが、公民館との連携が深まり、公民館長（元小学校校長）からの指導も積極的に取り入れ、効果を上げているので、これからも、内容の充実を進めていきたい。また、次年度からは共通教育の科目と共に生涯学習の今年度からは東京都の小学校での体験・校長からの講演を組み込んでいる、今後はこうした内容の充実をはかり、現場体験と講義との往還教育を深め、より実践的・経験的な授業を行っていきたい。

特別活動の理論と方法・進路指導では時々、映像資料に加えて、具体的な内容についてのパワーポイント資料を作り、視覚的な教材を多く用意するようにしている。また、授業中にスマホ等でネットを検索し、画像を見せるなどして、具体的なイメージを持てるようにしているが、さらに

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 体験レポート・発表資料・リアクションペーパー（非公開）
- 2 授業構想案・指導案・パワーポイント資料
- 3 各施設における体験発表資料を Teams 上での共有



## ティーチング・ポートフォリオ

奥田 順也

(記入日：令和4年2月28日)

### 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

児童教育学科科目：「音楽科教育法」（2年次後期必修科目2単位）「音楽」（1年次後期選択必修科目2単位）「児童教育演習」（3年次必修科目4単位）「卒業研究」（4年次必修科目4単位）など（他、幼児教育学科科目「弾き歌い演習」など）

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

児童教育学科の科目においては、学習指導要領にもとづき、小学校音楽科の授業を実践できるようになるために、音楽科に必要な知識、技能、音楽表現および実践的な指導法を習得することを目標としている。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

「音楽」では2年次に履修する「音楽科教育法」の基礎となるよう、小学校音楽科の領域分野の学習内容について、学習指導用の概要を理解するとともに、リコーダーの演奏などの演習も行った。また部分的な指導場面を体験することで、児童の視点とともに、授業者としての見方・考え方を学んだ。とりわけ、鑑賞の学習については、ICTの活用として、事前事後学習で実施する teams を介した鑑賞の授業課題を設定した。具体的には、学生の興味のある楽曲（J-pop などを含む）を任意で一曲選び、選択した楽曲の音源（you tube の URL）を紹介する。その際、URL とともに音楽科の授業において欠かすことのできない〔共通事項〕をもとにした楽曲の解説文を teams に投稿する。投稿した学生以外の学生は、これらを視聴した感想を forms に記述する。全員でその感想を共有できるよう、担当教員が感想の一覧を PDF で作成し、teams に投稿する。これらの手順を毎週、順番に担当し、最後に集大成として、共有した感想を踏まえて、選択した楽曲を鑑賞の授業で扱うと想定した、オリジナルのワークシートを作成する課題を設定した。

「音楽科教育法」では小学校音楽科の模擬授業を実施することを目指し、1年次に学習した学習指導要領の理解を深めるとともに、学習指導案の作成の仕方と授業づくりについて学んだ。そのための学習指導案の作成の仕方については、小学校音楽科の学習指導案を個人で作成する課題を出すにあたり、「三つの柱」に基づく学習指導案を作成するためのガイドライン（オリジナルの教材）を作成し、これを用いた反転授業を実施した。さらに、『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 音楽』に基づく評価規準の設定の仕方について、オリジナルのプロセスドキュメント（オリジナルの教材）により解説した。グループで行う模擬授業については、課題とした個人で作成する学習指導案を持ち寄り、グループ内で模擬授業の内容を検討および学習指導案を再考し、模擬授業を実施した。

実施後は、グループごとに実践を想定した総括（振り返り）を行った。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

「音楽」では、得手不得手関係なく音楽の学習活動に参加できる授業環境を整えたことから、活動を通して小学校音楽科の学習の本質（ただ演奏したり、音楽を聴いてただ感想を書いたりする＝音楽の学習ではない）について学ぶことができた。また、ICT を活用した鑑賞授業に関する課題を設定したことで、〔共通事項〕の重要性について実践を通して学ぶとともに、しばしば「ただ音楽を聴いて感想を書く」と思われることがある鑑賞の授業の意義について理解を深めることができた。

「音楽科教育法」においては、模擬授業実施に向けて行う一連の活動に全員が関わることによって、Plan（計画：個人での学習指導案の作成とグループ活動による再考）、Do（実行：模擬授業の実施）、Check（評価：学生間のディスカッションおよび担当教員によるフィードバックと、個人およびグループでの模擬授業の振り返り）、Action（改善：小学校での授業実践に繋がる改善事項の検討）、つまりは、授業内で行う学習活動を、現在、教育現場で求められている、PDCA サイクルによる授業改善につなげることで、実践的、かつ、協働的に音楽の授業づくりについて学ぶことができた。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

現行の学習指導要領の改善事項である「何ができるようになるか」「何を学ぶか」などの重要性を学生が実感できるよう、自ら1つ1つの学習に対して目標を持つことができる事前事後学修を含めた適切な課題を設定する。

音あるいは音楽は本来、目で見えるではないが、ICT、とりわけパワーポイントを使って可視化できる要素もある。これを活用することで、学生の音楽的な知識・技能の習得を図るとともに、音楽科の授業で活用できるパワーポイントの使い方と効果を、大学での授業を介して実感できるよう、教材開発や授業改善をしていきたい。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- (1) 「振り返りシート」（非公開）
- (2) 「レジュメ」（非公開）
- (3) 「学生が演奏するソプラノリコーダーなどの音源」（非公開）
- (4) 「学生が作成する学習指導案」（非公開）

## ティーチング・ポートフォリオ

加藤 美由紀

(記入日：2021年9月8日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

基礎ゼミナール (1年前期必修科目 2単位)、生活 (1年前期選択必修科目 2単位)、生活科教育法 (2年前期選択必修科目 2単位)、教育実習演習 (事前・事後指導) (3年選択必修科目 1単位)、児童教育演習 (3年次必修 4単位)、卒業研究演習 (4年次必修 4単位)、情報リテラシー (共通教育必修科目 2単位)、人体の科学 (共通教育選択科目 2単位) など

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

学生が、自ら主体的に学びを進められる姿勢を身に付けることを目標としている。児童教育学科の科目については、小学校教員免許を取得するために必要な資質・能力の育成を目標とする。共通教育科目については、習得した知識を日常生活の中である程度展開できるような姿勢を身に付けることを目標とする。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

1年次の生活については、生活科設立の経緯を知り、生活科で学ぶ内容の意義を考えさせている。2年次の生活科教育法については、指導と評価の一体化を踏まえながら、学生一人一人が学習指導案の作成、模擬授業を行うことで、授業構成を考えさせる支援を行った(エビデンス 2, 3)。

情報リテラシーについては、身の回りのデータサイエンスを活用した表計算の練習、発表資料の作成、総務省のインターネットトラブル事例集を用いた情報セキュリティと情報モラルに関する小レポート作成とロールプレイによって理解を促した(エビデンス 3)。人体の科学においては、生活習慣病などの私たちに起こりうる可能性のある事柄と関連した人体の科学を考えることをまず第一に目標とし、そのための知識として人体の構造や働きを考える構成とした。(エビデンス 1, 2)。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

1年次の基礎ゼミナールについては、検索サイトを使って収集した資料を用い

て、教育についての関心あるテーマに関するレポート作成とプレゼンテーションを行い、レポート作成と発表の流れをある程度習得した(エビデンス2,3)。1年次の生活については、教材作成後に学習目的を意識させたが、全員が目的を理解したわけではないように見受けられた(エビデンス2,3)。2年次の生活科教育法については、授業構成を考えさせる中で、生活科の意義を考える学生が多くみられた(エビデンス2,3)。

情報リテラシーについては、情報セキュリティや情報モラルに気をつけるようになったことが見受けられる(エビデンス2)。人体の科学については、食生活や身体運動などの日常の生活習慣を意識する姿勢を身につけた学生も見られた(エビデンス2,3)。

#### 5 今後の目標(これからどうするか)

生活については、教材作成に集中するだけでなく、なぜこの教材を使用するのかを考えさせる機会を多く設定し、生活科の科目の意義を理解するよう改善したい。生活科教育法は学生自らが授業構成を考えるための模擬授業の時間を確保したい。情報リテラシー、人体の科学については、今後も目標に沿って学習を進め、自らの問題として捉えられるようにリテラシーを高める機会を設定したいと考えている。

#### 6 エビデンスとなるもの(資料の種類などの名称)

1. シラバス(公開)
2. 提出レポート(非公開)
3. リアクションペーパー。発表内容(非公開)

## ティーチング・ポートフォリオ

加藤 美由紀

(記入日：2022年2月8日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

小学校教員免許科目、学科科目、共通教育科目を担当している。

#### 【免許に関する科目】

理科 (1年次後期選択必修科目 2単位)

理科教育法 (2年次後期選択必修科目 2単位)

教育実習演習 (事前・事後指導) (3年次選択必修科目 1単位) 共同担当

#### 【学科科目】

教職専門演習 (3) (3年次後期選択科目 2単位)

児童教育演習 (3年次必修科目 4単位)

卒業研究演習 (4年次必修科目 4単位)

卒業研究 (4年次必修科目 6単位)

#### 【共通教育科目】

生命の科学 (共通教育 2単位)

人体の科学 (2) (共通教育 2単位)

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

「理科」「理科教育法」「教職専門演習 (3)」「児童教育演習」「卒業研究演習」については、小学校教員免許を取得するために必要な理科に関する資質・能力を身につけることを目標としている。

「生命の科学」「人体の科学 (2)」については、生物学に関する科学的知識をもとに、医療、環境などの日常生活の中での問題についてある程度考えることができる姿勢を身につけることを目標としている。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

理科教育に関する実践力を育成するために、学生が主体的に実践できるように工夫している。「理科」については、小学校での学習内容に加え、教員採用試験に出題される範囲の理科に関する概念を習得するために、毎時間実験・実習後、レポートを提出させることで、科学的思考力の育成を行った。小学校理科で行うプログラミングについて、1年次「理科」では、タブレット PC を用いた

プログラミング、2年次「理科教育法」では、ビジュアルプログラミング言語によるプログラミング教育を学習する機会を設けた。「理科教育法」については、学生が実験・実習に対する準備、児童への実験方法の指示の方法を習得するよう支援を行った。また、新学習指導要領で提示された理科の見方・考え方を働かせた授業を構成する力を育成した。

共通教育科目である「生命の科学」においては、生物学に関する科学的知識の説明とともに、生物多様性保全などの環境問題や、ゲノム編集などの遺伝子技術についての現状を示し、環境問題や遺伝子技術について学生に考察させる機会を設けた。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

「理科」については、毎時間レポートを提出させる中で、探究のプロセスに沿ったレポートを作成できる姿勢を身につけた学生も見られた（エビデンス3）。

「理科教育法」については、複数班分の実験の準備、安全指導、実験方法、結果、考察、後片付けの指導についての流れを学生が習得した。また、理科の各学年の学習内容の構成を確認し、理科の見方・考え方を考慮に入れて学習指導案を作成する姿勢を身につけた（エビデンス2,3）。

「生命の科学」「人体の科学（2）」については、日常生活で目にする生命科学の問題について関心を持つ姿勢を身につけた学生もみられた（エビデンス2,3）。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

「理科」については、実験・実習及びレポート作成による概念の習得を継続するとともに、引き続き理科におけるプログラミング的思考を学生が習得する機会を設ける。1年次生はタブレットPCを用いて実験結果の図や文章を作成したり、実験結果を動画で録画することにより理科における対話活動に活用したりしている。これらのICTの活用を充実させるとともに、電子黒板を用いた授業について学生が習得する機会を設けることが次年度の課題である。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. シラバス（公開）
2. 提出レポート（非公開）
3. Teams 課題配信への提出課題、実験結果のレポート（非公開）

## ティーチング・ポートフォリオ

松本 祐介

(記入日:2022年2月26日)

### 1 教育の責任(何をやっているか:担当科目)

体育科教育法(2年後期必修科目2単位)、児童教育演習(3年必修科目4単位)、ICT活用演習(2年後期選択必修科目2単位)、健康スポーツ論(共通教育科目2単位)、スポーツ(3)(共通教育科目2単位)、スポーツ(5)(共通教育科目2単位)、スポーツ(6)(共通教育科目2単位)

### 2 理念(なぜやっているか:教育目標)

児童教育学科の科目の場合は、教員になるために必要な知識及び技能を確実に身に付け、主体的・対話的で深い学びの実現のために学生同士の関わり合いを重視しながら、「より良い授業」を目指して学び合い高めていくことである。

共通教育科目では、スポーツや運動を肯定的に捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するために、基本的な知識を身につけるとともに、主体的に「する、観る、支える、知るスポーツ」へと自らを繋げていけるようにすることである。

### 3 方法(どのようにやっているか:実践の工夫)

体育科教育法:この授業では、「良い体育授業」の実践を目指して、指導案の作成と模擬授業実践を中心に構成している。「良い体育授業」を目指すためには、「反省的实践家」としての技量を高める必要がある。そこで、模擬授業の客観的データを示し、毎時間の省察を重視している。省察された内容は教師グループへ共有し、反省会にて改善点を考察する手立てとした。本年度はこれらのデータ全て Teams を活用して共有することで各個人の作業効率アップを図った。

ICT活用演習:まず Society5.0 の概要から、最新の Tec 技術について内閣府などから発表されている動画を活用して理解を促した。その上で、教育現場での ICT 活用実践の現状から ICT 教育の未来までを考察した。一人ひとりに調査内容(各教科)を割り振り、個人がそれぞれ調べ、その内容のプレゼンを実施した。また、Google Classroom などの LMS の演習も実施し、ICT 活用の実践力も身につけた。

共通教育科目（スポーツ科目）：講義科目では、自身のスマートフォンやタブレットなどを使用した即時的なアンケート集計を活用し、様々な意見や経験を聞く機会を設けながら、学習を深めていった。実技科目では、主体的な活動を目指して、後半はグループ活動を主に、活動や練習もグループによるオリジナルで行い、試合運営も学生自身で行った。

#### 4 成果(どうだったか:結果と評価)

健康スポーツ論においては、毎時間の小レポート及び最終レポートでの感想にて多くの学生から、スポーツに対する否定的な意見から肯定的な意見への変容やスポーツを捉える視点の変化がみられた（エビデンス1）。

その他の授業においても、学生による授業評価アンケートにて一定の高評価を得ることができた（エビデンス2）。

体育科教育法では、省察及び反省会での改善案を踏まえた指導案の修正を行い、全員が割り振られた学年・領域の指導案を完成させた（エビデンス3）。

#### 6 エビデンスとなるもの(資料の種類などの名称)

- 1 リアクションペーパー(非公開)
- 2 学生による授業評価アンケート(非公開)
- 3 学生の作成した指導案(非公開)



# ティーチング・ポートフォリオ

学科：児童教育 氏名：山口恭平

(記入日：2022年 2月 28日)

## 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

<2021年>

- 「教職論」(国際1年前期 教職科目 2単位)
- 「教職教養演習(2)」(児童3年前期 選択必修科目 2単位)
- 「学校と教育の歴史」(児童2年前期 選択必修科目 2単位)
- 「教育課程論(児)」(児童2年前期 選択必修科目 2単位)
- 「教育課程論(幼)」(幼児3年前期 選択必修科目 2単位)
- 「教育原理(児)」(児童1年後期 必修科目 2単位)
- 「道德の理論と指導法」(児童2年後期 選択必修科目 2単位)
- 「カリキュラム論」(幼児4年後期 選択必修科目 2単位)
- 「教育原理(幼)」(幼児1年後期 [12回分] 選択必修科目 2単位)
- 「教育課程論(中高)」(国際3年後期 [8回分] 教職科目 4単位)
- 「教職教養演習(1)」(児童2年後期 選択必修科目 2単位)
- 「児童教育演習」(児童3年 通年 必修科目 4単位)
- 「教育課程論(中高)」(史・日・心・生2年後期 [7回分] 教職科目 2単位)
- 「教育原理(中高)」(国際1年後期 教職科目 2単位)
- 「道德の理論と指導法(中)」(国際2年後期 教職科目 4単位)
- 「川村学園と女子教育史」(国際・観光2~4年後期 選択科目 2単位)

## 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

担当科目のほとんどが教職科目であるが、基本的に教育に対してさまざまな観点から物事を考えられるように心がけている。とくに教職科目では、将来教員となることを想定し、教育に関して柔軟な見方をとれるように、教育の原理的なところまで掘り下げながら、多面的多角的な視点から教育について考えることができる力を身につけることを目指している。

## 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

- ・「学校と教育の歴史」と「教育原理」では、事前に配布したワークシートと資料を中心に学習を進めた。適宜映像の視聴などを取り入れ、ディスカッションなどによるアクティブラーニングを心がけた。
- ・「道德の理論と指導法」では、最終目標を学習指導案の作成に定め、そこに向けて、道德教育の目的論や発達の理論など理論的な話を授業の前半に配置し、後半をより実践的な授

業論などでかため、学習指導案の作成へ向かえるように授業の流れを工夫した。

・「カリキュラム論」では、映像作品や資料をもとにした教員と学生の対話を中心とし、アクティブラーニングを心がけた。

・「教育課程論」では、事前に配布したワークシートと資料を中心に授業を進めた。適宜、学生が個人やグループで授業内容を反芻しながら考察することが必要な課題を課し、学修効果を高めることを目指した。

・「教職教養演習（2）」では、とにかく小論文を書くことに慣れることを目標に、学生が文献を集め、自ら構成して書くということを授業の中心に据えた。

・「教職教養演習（1）」では、意図的に学生にとって少し難しいと感じるであろう文献を提示し、それを要約したり、コメントを付したり、そのコメントをもとにディスカッションしたりすることで、教育に対して多面的多角的な視点から考察する態度を養うことを目指した。

・「児童教育演習」では、資料をもとにしたディスカッションを基本とした。心がけたことは、できる限り学生に話してもらい、教員としては要所所で議論の方向付けをすることである。

・「川村学園と女子教育史」では、事前に配布した資料を中心に授業の前半でパワーポイントによる講義を行い、後半は学生が発展的な内容について考察することを求める課題を課すという方法をとった。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

・「学校と教育の歴史」と「教育原理」では、授業評価アンケートからも、難しい内容ではあるが、楽しんで受講できているというコメントが寄せられた。知らないこと・難しく感じる内容を、楽しく学べたという声は教員としても大きな励みとなった（エビデンス1）。

・「道徳の理論と指導法」では、道徳に対する多角的な視点を強調したためか、道徳には正解がなく難しいと感じた学生も多く見られたが、授業評価アンケートでも自分の意見をまとめること、言語化することで自分の価値観を再認識したという声も見られた。道徳に対する多面的な視点を肯定しつつ、生徒を善へと導こうとする姿勢は、学生が作成した学習指導案からもうかがえた（エビデンス1、2）。

・「カリキュラム論」では、学生から直接、ディスカッション中心の授業を楽しんでおり、知らないことを学んでいる旨を伝えられた。学生の知的好奇心を刺激できていることは、レポート等からもうかがえた（エビデンス3）。

・「教育課程論」では、レポート等から、学生が授業内容について主体的に考察していることがうかがえた（エビデンス3）。

・「教職教養演習（2）」では、学生は5本の小論文を書いたのだが、教員のコメントを受けてのリライト等で、多くの学生が構成のしっかりした小論文を書く力を次第に身につけていることがうかがえた（エビデンス3）。

・「教職教養演習（1）」では、前述のとおり課題文献を難しめに設定したのだが、それでも少し難しすぎかもしれない。そうした声は直接学生から聞いたし、授業評価アンケートにもそのあたりが反映されているように思われる。ただ、楽しかったという声も寄せられていることも事実であり、学生の「多様な教育観」を養うという目標はある程度達成できたのではないかと考えている（エビデンス1、3）。

・「児童教育演習」では、学生から主体的にディスカッションができるゼミを楽しんでいるという旨を伝えられた。学生が主体的に教育を深く考察しようとしているさまは、レポートや卒業研究にむけた個性的な課題設定からもうかがえる（エビデンス3）

・「川村学園と女子教育史」では、若干課題が難しかったことが懸念される。それは授業評価アンケートで、相対的に他の授業に比べて理解度や満足度等が低かったことから推察されることである。とはいえ、学生が授業内容について真摯に考えていることは、レポート等からうかがえた（エビデンス3）。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

学生の理解度や求めていることに十分に配慮しつつ、より学修効果の高い教材や題材を用いるように授業改善につとめていく。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. 2021年授業評価アンケート（前期・後期）（非公開）
2. 道徳科学習指導案（非公開）
3. レポート・課題（非公開）